

第5章「栃木市の宝」の保存・活用に関する将来像

1.「栃木市の宝」の保存・活用に関する将来像

本市は原始から現代まで、6つの地域で多様な「栃木市の宝」が人びとの営みによって育まれ伝えられてきました。これらは本市の魅力と本市らしさを表すもので、市民の誇りです。

今、少子高齢化や人口減少などによる社会のしくみの変化により、「栃木市の宝」を未来へつなげることに課題もありますが、本市の宝を後世に伝えていくことが、これからの社会を生きる栃木市民の心を豊かにし、また、自分たちが暮らす地域に誇りをもって未来を創ることにつながります。

地域計画は、次の将来像を掲げ、「栃木市の宝」の保存・活用の現況を踏まえて、その保存・活用を進めます。

**「栃木市の宝」を知り、分かちあい、守り、活かすことで、
人とひと、過去と今をつなぎ、未来を創る**

2. 将来像を実現するための方向性

将来像を実現するための方向性として、「知る」、「分かちあう」、「守る」、「活かす」の4つを設定します。地域計画はこの4つの方向性を踏まえ、地域一体となって「栃木市の宝」の継承につなげます。

◆ 方向性1 「栃木市の宝」を知る

本市に伝えられてきた多様な「栃木市の宝」の魅力や個性を市民が知ることで、自分たちが暮らす地域を大切に思う気持ち、誇りに思う気持ちや愛着が芽生えます。

「栃木市の宝」の魅力や個性を知るために、まず宝として何があるのか、また、宝が地域にとってどのような意義をもつのか明確にする必要があります。

そのために、「栃木市の宝」の把握と詳細を知るための調査・研究等の取組みを進めます。

◆ 方向性2 「栃木市の宝」を分かちあう

調査・研究によって分かった「栃木市の宝」について、市民がそれらを知り、関心を持つ機会を得るために情報発信の手段・場所とそれを受け取る手段・場所が必要です。

情報の発信と受信のそれぞれの手段・場所を充実することで、本市の宝の魅力や個性を市民が分かちあうことが可能となり、地域に対する誇りや愛着が深まります。

そのために、情報発信の場、情報を受信し分かちあう場の役割を持つ中核施設の整備を進めます。

◆ 方向性3 「栃木市の宝」を守る

「栃木市の宝」は本市の魅力と本市らしさを表し、地域住民の誇りです。これらを守り伝えていくための人材・財源・手段などを充実させ、また、行政・所有者・市民・民間などによる多様な主体の参加が必要です。そのための仕組みづくりを進めます。

◆ 方向性4 「栃木市の宝」を活かす

「栃木市の宝」を守り伝えていくことは、それらを活かすことでもあるので、公開による活用、観光面での連携による活用などの充実を進めます。

また、「栃木市の宝」を活かすことは、未来の栃木市を創ることにつながるので、未来を創るためのひとづくりが大切です。そのための人材育成を進めます。